

令和4年度（第28期）にいがた市民大学

「脱炭素社会に向けて～温室効果ガス削減とその取り組み～」公開講座
「平和な社会を築き気候危機を防ぐために：地域からのグリーンニューディール」
実施概要

【会 場】 クロスパルにいがた 映像ホール（新潟市中央区礎町通3ノ町2086）

【日 時】 令和4年9月17日（土） 午前10時～12時

【講 師】 京都大学名誉教授、公益財団法人地球環境戦略機関 シニアフェロー
松下 和夫

【参加者】 計37名 （内訳）・講座受講者 21名
・一般参加者 16名
（うちオンライン参加者3名）

【内 容】

戦争は人権・環境破壊の大きな要因ですが、化石燃料依存の減少と再生可能エネルギー拡大によりエネルギーを巡る争いを防ぐことができるとして、地域の再生可能エネルギーを活用し、循環型で地域が自立して暮らせる社会づくりについてお話しいただきました。

講義前半では、気候危機が現実化している中、脱炭素社会への移行が始まっており、脱炭素市場獲得に向けた「緑の産業政策」の必要性と、世界の戦略について学びました。

後半では、日本版の脱炭素社会移行に向けて、現状の政策の延長ではなく、エネルギー・モノの作り方・使い方を根底から見直すことが必要であること、また、脱炭素は地域課題を解決し、地域の魅力と質を向上させるとして、地域から脱炭素を進めていくことの重要性について学びました。

受講者アンケートでは、「脱炭素に向けた日本の姿勢に遅れがある」、「個人でできることに取り組みたい」などの感想がありました。

